

## 【勝利の人生になるため(5) : 信仰の大盾で自分を守りましょう】

聖書本文:エペソ人への手紙 6章 16節 / 暗唱聖句:ローマ人への手紙 10章 17節



7月のはじめの主日の礼拝に来られたみなさんを主の御名によって歓迎します。始まった7月の上にも日々主の最善の導きとふさわしい助けがありますように、7月中にもさらなる主の豊かな祝福が愛するCPC全神の家族の上に豊かに注がれますように切にお祈り申し上げます。愛するみなさん!一週間も主の平安でみなさんの心と思い、体がよく守られましたか。

勝利の人生を送るため、最近我々は様々な人生の中で戦いがあり、その中で霊的ないろんな戦いの中で勝利を治めるためにどのように生きるべきなのかエペソ人への手紙の御言葉を通して学んでいます。今日は5回目信仰の大盾で自分を守るということについて一緒に御言葉を通して学んで行きたいと思います。

**1. 火矢(ひや)を放つサタン**

エペソ 6章 16節をみるとサタンと悪い者たちが神の民たちをどうやって攻撃するのかをみせてくれる単語が一つ出てきます。どんな単語ですか。そうです。“火矢”という単語です。悪い者たちが私たちに倒すために今もたえず、火矢を放(はな)ちながら攻撃してくるということです。

愛する信仰の家族のみなさん!

皆さんはいままで、この霊的戦いというメッセージを聞いてどれだけの緊張感(きんちょうかん)をもって祈りと御言葉で武装(ぶそう)してきていますか。目にはみえない戦いなのでいい加減(かげん)にしよう! と思っはいませんか。いま自分には特に必死(ひっし)に祈るほど大きい問題もないので、自分には霊的戦いはあまり意味がないと油断(ゆだん)しているところはありませんか。それはみなさんがすでに敗北に向かっている証拠(しょうこ)です。

愛するみなさん! しばらく考えてみてください。今もなお、サタンは私たちの人生においてある時は経済的苦しみの火矢を、ある時は人間関係が崩(くず)れる火矢をたえず、放ちます。ある時は憤りという火矢に放たれて何日間も眠れず、憤る時もあります。また悪魔は度を過ぎた思い煩いや考えすぎのため何もできないように気を捕らえてしまいます。何の喜びもなく、そして先が見えないため不安と恐れに捕らわれたり、過去にとらわれるようにさせ希望と望みをもてないようにさせます。

サタンは火矢で私たちに攻撃します。ただ単に、サタン一人が放つから何とか避ければいだろうと思うだけで終わることでは決してありません。たとえば、みなさんに向かって10万人の軍人たちが一斉(いっせい)に火矢を放つとどうなるでしょうか。避ける道はあるでしょうか。逃げる道もなく、逃げる時間もなく一斉に悪い霊たちが火矢で攻撃してくるなら私たちはどうすべきでしょうか。

**2. 大盾の後ろに避(さ)ける道以外(いがい)に道はありません。**

戦場で矢が雨のように飛んでくる時、生きる方法はただ一つです。それは大盾の後ろに身を避けるしかありません。実際にローマ時代の軍人たちが使った大盾は私たちが思うほど小さい盾ではありません。長さが1メートル20センチの大きい盾だったそうです。背が低い人は体をすこし伏せると全身が塞(ふさ)がるほど大きい盾でした。当時ローマ盾(たて)の素材は布と皮でした。普段は布と皮のまま持ち歩きますが、戦争の時はわざと水にぬらして持ちます。なぜなら、持ち歩くには重たいですが、火矢に射(さ)されても炎(ほのお)は広がらず、消されるからです。ローマ軍隊はこのような訓練を通して大盾を柔軟(じゅなん)に用いる方法を学んで熾烈(しれつ)な戦闘の場では敵の弓(ゆみ)と槍(やり)から自分の身を守りました。霊的な面においても同じです。私たちがこのような信仰の大盾で悪魔の火矢の攻撃を食い止めなければなりません。私たちが悪魔に、もうやめなさいといくら話したとしても、悪魔

がすなおにやめると思いませんか。悪魔の使命は神様の民に火矢を放って倒すことです。すると私たちはどうすべきでしょうか。私たちは自分のすべきことだけすればそれで十分です。“放ちたかったら、好きなようにしなさい。”と堂々と話しながら、信仰の大盾で食い止めればそれで十分なのです。

今もなお私たちが油断している間、悪魔は続けて矢を放ちながら攻めつけて来ています。その矢によって多くの人々は二つの人生に分かれます。一つ目は矢の攻撃が信仰の盾射に射される人です。いくら小さい火矢の攻撃でもいつも大きい信仰の盾の後ろに身を隠して自分自身を守りながら前進し続けます。敵をよく知っていて敵の攻撃パターンまで全部わかるため火矢の攻撃が来ると心配せず、信仰の盾を用います。何の恐れもありません。むしろ丈夫な信仰の大盾があるため何が起こっても落ち着いて堂堂と進み、冷静に向かい立つ事ができる人生です。

二つ目は矢が体に射され毎日“たいへん、たいへん、苦しくて苦しくてしょうがない、生きるのがたいへん、いやだ。もうやりたくない！すべてが面倒くさいだ！”とつぶやきながらいつも不平と絶望の状態の中で感謝と喜びを失ったまま生きる人たちです。射された矢がやっと取れたと思ったら、また新しい矢が飛んできて倒れます。これらのことがずっと繰り返される人生もあります。

そうです。信仰がある者にもない者にも例外なく火のような試練はやって来ます。火のような試練が絶える日がありません。しかし信仰のある者はいつも大きい信仰の盾で火矢を塞(ふさ)ぐことができます。それが祝福であり、平安を持てる保障になるのではないのでしょうか。

### **3. 信仰の大盾を取りなさい!**

最近様々な試練と霊的戦いが来ていますか。自分自身をどうにかして守りたいですか。じっとしていると自動的に守られるわけではありません。信仰の大盾を持って塞(ふさ)ぐときこそ自分自身を守ることができるのです。

#### **この信仰の大盾というのは何でしょうか。**

信仰の大盾は神様と神御自信の約束に対する聖徒たちの信仰を意味します。信仰の本当の価値(かち)は信仰を所有した者にあります。今日の暗唱聖句であるローマ人への手紙10章17節を一緒に開いて読んでみましょうか。

**“そのように、信仰は聞くことから始(はじ)まり、聞くことはキリストについてのみことばによるのです。”**

この箇所によると信仰というのは神様のみことばを聞くことから始まると教えています。つまりいつも聖書を黙想し、聞いて、聖書を正しく知り、聖書に啓示されている神様とイエスキリストを知ることができ、信じるようになるのがまことの信仰なのです。

ですから、何よりもみなさんの信仰の根拠はこの聖書にあることを忘れないでください。みなさんの信仰の元はこの神様の御言葉から始まることをいつも覚えてください。今自分自身にどれぐらいの信仰があるのか、どれほど信仰を持っている人なのか知りたくありませんか。それは簡単な事です。先週一週間どれだけ神様の御言葉をつかまって生きたのか。一日24時間の中でどのぐらい神様の御言葉をいただく時間を取ったのか。イエスキリストの御言葉に関して自分の最近の姿勢を振り返ってみれば自分の信仰が最近どのぐらいなのかがよくわかってくると思います。

**信仰の大盾は神様の御言葉です。**イエス様も40日間の断食後訪れたサタンに火矢をどうやって塞(ふさ)いで打ち勝ちましたか。イエス様は十分御自身の力でも勝つことができましたが、そうしないで神様の御言葉によって勝てたことを覚えてください。自分が一番弱いときさえも神様の御言葉をつかめば自分自身が守られるだけではなく十分打ち勝つことができるということを見せ、教えようとされたのがまさにイエス様の御心だったのかがわかります。神様の御言葉を読んで、聞いて、その御言葉通りになることを信じてください。そして信仰によって謙虚(けんきよ)に従っていきましょう。神様の御言葉にかたく立った信仰が私とみなさんのすべての人生を守り、導いてくれる大き

い盾になってくれると信じます。今日も神様の御言葉を通して神様はみなさんといつともにおられ、みなさんを守り、みなさんのために戦ってくださる方であることを確信されますように切に祈ります。

#### 4. この信仰の大盾をどうやって効果的につかうべきでしょうか。

当時ローマ軍隊は大盾をもっと効果的に使うために他所(よそ)の軍隊がしなかった特別な訓練をさせたそうです。それはすばやく大盾で団結(だんけつ)してグループをつくる訓練でした。当時ローマ軍隊が使っていた盾は互いにかみ合っつながらるように作られたそうです。どこからも矢がはいれないようにです。そして敵に向かって前進(ぜんしん)しているローマ軍隊に四方八方から飛んで来る火矢の攻撃がはじまるとローマ軍隊はすばやくグループを作って大盾をつなぎます。そうすると敵がどんなに火矢と槍(やり)で攻撃してきても完全に塞ぐことができるからです。すばらしいではありませんか。

みなさん!私はこのすばらしい事実を知ってやっと神様が信仰をローマ軍隊の大盾にたとえられたのがわかりました。みなさん、この信仰の大盾によって神様が私たちに望まれるのはなんでしょうか。戦うとき大盾を用いて軍人たちが抜(ぬ)け目(め)なく互いに団結(だんけつ)したその姿を今日霊的戦いで戦っている私たちにも願われているのではないのでしょうか。主の教会にて一つの信仰をもっている聖徒たちも抜(ぬ)け目(め)なく一緒に団結しなければなりません。

みなさん!先週バベキューの時楽しかったです。わたくしもその時、肉を焼く奉仕ができ感謝でした。みなさん、肉を焼くため熱い火力(かりよく)を作るためには炭をたきますが、その時別々にたくのではなく、一緒に木炭を集めてたく時こそ、強力な火力をつくるのが可能になることと同じように主の教会内にも同じです。牧師一人やすぐれた聖徒一人がいたとはいえ教会全体が勝利するとは決して言えません。むしろ軟弱な人たちが集まったとしても一緒に信仰によって団結し、連合して一つのチームになる時こそその教会はまさしく信仰によって大なる栄光の勝利を得ることができると信じます。本当に強い教会は神様の御言葉の中心とした一つの信仰、一つの心を立てて一つのチームとして働くことができる教会です。

今日意外とクリスチャンたちこそがともに連合してチームを組んでやるのが弱いような気がします。愛するみなさん!教会で長く信仰の生活をすればするほど、陰で聖徒たちのために仕える奉仕はやりたがらず、しきりに個人のリーダーシップばかり強調し、目立つリーダーになりたがる傾向があります。ほかの人より目立ちたがり、前に立ちたがり、独自に自分の思い通りに教会も、人も動かたがります。そうしなければ、自分が無視されているようで、自分は認められてないようで、無器用な者だと否定的に考えがちです。しかし、このように個人プレーではどんな試合でも勝てないわけで、戦いにばらばらになっては決して霊的な戦いに勝つことはできません。

愛するみなさん!覚えてください。教会が主にある一つの信仰の大盾を持ってひとつになって団結してチームワークして働いていけば、みんなが守られ、さらに大きな力が出ると信じます。神の御国の働き、主の教会の働きは個人プレーではなく、団結して働くチームプレーであることを決して忘れてはいけません。今日私たちの教会のメンバーたちは一つのチームです。一人一人、子供まで全部大切なチームの欠かせない一員たちです。ともに信仰をあわせ、心を合わせ、力を合わせて、ともに支えながらともに戦って勝利して行くクリスチャンプレイズチャーチを作って行きませんか。7月も、これからも、信仰のイエスキリストを信じる信仰を持ってさらに攻撃される隙間がないように団結しましょう。このために神様の御言葉を通して信仰の大盾をかたく立たせましょう。自分自身を守り、そして教会のすべての家族が守られながら7月にもさらに前進し続け、大勝利を治める今月となりますように互いのために祈って行く今週、今月となりますように切にお祈り申し上げます。そして、7月には我々だけではなく、あさってから来始める宣教チームとともに信仰と力をあわせ、祈り、分かち合い、平和の福音を述べ伝えることができるように協力しましょう。7月に主イエスキリストの御名に通して悪霊どもが天から落ち、敗北され、大勝利を治めるクリスチャンプレイズ教会と全家族となりますように切にお祈り申し上げます。アーメン!

## 【信仰に関する御言葉】

- \* 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることとを、信じなければならないのです。(ヘブル人への手紙11章6節)
- \* 私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。(ガラテヤ人の手紙2章20節)
- \* ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。(ローマ人への手紙5章1節)
- \* それは、あなたがたの持つ信仰が、人間の知恵にささえられず、神の力にささえられるためでした。  
(コリント人への手紙第一2章5節)
- \* 信仰の戦いを勇敢に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、また、多くの証人たちの前でりっぱな告白をしました。(テモテ人の手紙第一6章12節)
- \* 私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。(テモテ人への手紙第二4章7節)
- \* 信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称賛と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。(ペテロの手紙第一1章7節)
- \* 【主のお着物にさわることでも】イエスは、彼女に答えて言われた。「ああ、あなたの信仰はりっぱです。その願いどおりになるように。」すると彼女の娘はその時から直った。(マタイの福音書15章28節)
- \* 【主の御ことばだけでも】これを聞いて、イエスは驚かれ、ついてきていた群衆のほうに向いて言われた。「あなたがたに言いますが、このようなりっぱな信仰はイスラエルの中にも見たことがありません。使いに来た人たちが家に帰って見ると、しもべはよくなっていた。」(ルカの福音書7章9節—10節)
- \* 【屋根を外しても】イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。  
(マルコの福音書2章5節)
- \* 【パンくずでもいただければ】そこで、イエスは彼女にこう言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。」(マルコの福音書5章34節)
- \* 【どんなことでも】イエスは答えて言われた。「ああ、不信仰な世だ。いつまであなたがたといっしょにいななければならないのでしょうか。いつまであなたがたにがまんしていなければならないのでしょうか。その子をわたしのところにつれて来なさい。」(マルコの福音書9章19節)
- \* イエスは言われた。「できるものなら、というのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」  
(マルコの福音書9章23節)
- \* イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったのではありませんか。」(ヨハネの福音書11章40節)
- \* こうして諸教会は、その信仰を強められ、日ごとに人数を増して行った。(使徒の働き16章5節) アーメン！